

新潟県における「農福連携」の取組事例集



令和7年3月

新潟県農福連携推進連絡会議

目 次

< 令和 6 年度取材事例 >

- 1 社会福祉法人 中越福社会 … P 1
みのわの里ジョブプレイスもみじ（就労継続支援 B 型事業所）
～新潟県の養鯉業と障害者福祉～
- 2 三膳 正蔵 … P 2
【球根栽培の継続】～農福連携で未来と心に花を咲かせる～
- 3 早津 知祥 … P 3
～積極的な障がい者雇用で規模拡大、地域の農地維持にも貢献～
- 4 社会福祉法人 のぞみの家福社会 … P 4
ジョブプレイスのぞみふぁーむ（就労継続支援 B 型事業所）
～農福連携を地域とともに取組む「結米（ゆめ）物語」～
- 5 特定非営利活動法人 立野福社会 … P 5
障がい者就労トレーニングファームチャレンジ立野（就労継続支援 B 型事業所）
～地域の労働力不足解消に向け農福連携～

< 令和 5 年度取材事例 >

- 6 特定非営利活動法人会社 支援センターあんしん … P 6
ワークセンターあんしん、きぼうワークス（就労継続支援 B 型事業所）
～農福連携の相談窓口として「農」と「福」をつなぐ～
- 7 有限会社 角田山農園（カーブドッチワイナリー） … P 7
～多数の福祉施設と連携して、ワイン用ぶどうの栽培に取り組む～

目 次

- 8 柄山そば生産組合（えちご上越農業協同組合） … P 8
～要介護認定高齢者の経験を生かしてヨモギを製造～
- 9 株式会社 グリーンプラント中越 … P 9
～廃棄していた食材を農福連携で有効活用～
- 10 医療法人 崇徳会 … P 10
ワークセンターのっぺ（就労継続支援 B 型事業所）
～ベビーリーフ収穫後に残った茎や葉を学食で提供～
- 11 社会福祉法人とよさか福祉 … P 11
豊栄福祉交流センター クローバー
～食品加工で広がる農福連携の輪～

（敬称略）

注：各事例の表題の色は、**緑色が農業者の取組み**、**橙色が福祉事業者の取組み**になります。

障害者に対する就労支援

障がい者総合支援法における就労系障害福祉サービスには、就労移行支援、就労継続支援A型、就労継続支援B型、就労定着支援の4種類のサービスがあります。

・就労移行支援

就労を希望する障がい者であって、一般企業に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、一定期間就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行います。

・就労継続支援A型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。

・就労継続支援B型

一般企業に雇用されることが困難であって、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供を行います。

・就労定着支援

就労移行支援等を利用して、一般企業に新たに雇用された障害者に対し、雇用に伴う生じる日常生活又は社会生活を営む上での各般の問題に関する相談、指導及び助言等の必要な支援を行います。

新潟県農福連携推進連絡会議の情報はこちらから ➤



社会福祉法人 中越福祉会

みのわの里ジョブプレイスもみじ（就労継続支援B型事業所）
（新潟県長岡市来迎寺4150番地）

～新潟県の養鯉業と障がい者福祉～



錦鯉 成魚



稚魚選別作業



消毒剤散布



養鯉池除草作業

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 養鯉業者より市へ、障がい者との協業ができないか相談があり、新潟が誇る文化の一つである養鯉業との連携に取り組ませていただきました。
- 養鯉業も人手不足で毎年作業に苦慮していたということで、両者にとって利益のある相互効果の高い関係を築くことができました。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口・事業等）】

（県）新潟県農福連携コーディネーター（工房こしじ）
長岡市障害福祉課活動係

障がい者の就労状況

【年間作業利用者数】

- 年間延べ（58名）

【主な作業の内容】

- 稚魚選別、餌の調合、養鯉池周りの除草

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと】

- 新潟県を代表する産業、文化に携わる事で、利用者自身が地場産業に貢献する喜びを感じる事ができました。

【大変だったこと】

- 稚魚が小さい為に、選別時には泳ぎ回る稚魚を的確に選別する事は難しく、その判断も絶対的なものがない為に作業の標準化が難しかったです。
- 長時間の屋外作業となるため、利用者の体調管理に気を遣いました。

【継続するための工夫】

- 受託した作業を利用者に携わっていただく為に、工程を細分化し適性等を見極めながら作業提供する事で、企業の求める水準をクリアし再現性の高いプロセスを構築しました。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- 農福連携は多くの価値提供に繋がると 생각합니다。他業種連携は無限の可能性。

三膳正蔵

(新潟県新潟市東区)

【球根栽培の継続】🌸農福連携で未来と心に花を咲かせる🌸



球根の掘り取り



球根収穫作業



調整後の球根



選別見本



調整作業風景

【経営概要】

●水稲 3.6 ha、 ●園芸（球根以外） 35 a ●球根 100 a

【取り組んだきっかけ】

球根栽培では人手が多く必要な作業があり、以前は10名以上の季節パート従業員を雇用して行っていたが、近年、人手の確保が難しくなりJA職員に相談したところ、福祉との連携について提案を頂きました。新潟市あぐりサポートセンターより連携の説明を受け2カ所の施設に作業依頼したところ、戦力になると確認できましたので継続しています。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口・事業等）】

（相談先）新潟市あぐりサポートセンター

農福連携に取り組んだ経緯

障がい者の就労状況

【雇用者数】

作業時期は6月後半～8月中旬。2カ所の施設から各（1回）3～5名
調整作業は月～金、事業所が交代で連日作業実施。作業時間は1回2～3時間

【主な作業の内容】

球根の掘り取り・掘り取り後の選別調整

農福連携に取り組んでみて

- 福祉と連携してからは人手が多く必要な時期に毎年、複数名で来てもらえるため、人手を探すことがなく安心してしています。初年度はハウス内での選別作業を主にお願いしましたが、2年目からは畑での掘り取り作業も依頼しています。季節的な作業を毎年行ってもらいますが、皆さん、作業を覚えていて、スムーズに始めてもらえて助かっています。
- 選別作業は判断が曖昧なところもあるため、覚えて頂くまでには時間が必要でした。また、写真を用いて、○・×表示での【選別基準】も作成しました。
- 2カ所の施設からきてもらっていますが、比べることなく各施設の得意・不得意を理解し職員（支援者）とのコミュニケーションを大切にしています。助かっている事を伝えたり、直してもらいたい事は直ぐに伝える様にしています。

これから農福連携に取り組もうと考えている農業者へ一言

福祉との連携では、今まで行ってきた作業時間や作業のやり方にかかわらず、可能な範囲で柔軟に考えてみる事も必要だと感じています。最初は不安もあると思いますが、双方が相手を思う気持ちで接する事で、今では強力な戦力（良きパートナー）です。

早津 知祥

(新潟県上越市)

～積極的な障がい者雇用で規模拡大、地域の農地維持にも貢献～



えだまめ畑



枝豆のもぎ取り選別



さつまいもの収穫



畑の整備

農福連携に取り組んだ経緯

【経営概要】

- 野菜（露地：えだまめ9ha、キャベツ3.3haなど、ハウス0.25ha：オクラ、ほうれんそうなど）7品目を栽培。就農して6年目になります。

【取り組んだきっかけ】

- 建設関係で数年間働いた後、上越市の就労継続支援事業所「土の香工房」に就職。現在も職業指導員として従事しています。土の香工房で農福連携に取り組んでいたことから、自身も農業に関心を持ち、上越市内の農業法人で1年半研修した後、職業指導の経験を活かし就農と同時に農福連携にも取り組み始めました。

障がい者の就労状況

【雇用者数】

- 就農当初：就労継続支援A型3名。⇒R6年：13名（就労継続支援A型9名、就労継続支援B型4名）
- 1日2～3名、繁忙期は5～6名、年間約200日程度の農作業を行っています。
- 一人当たりの作業時間は、就労継続支援A型：4～5.5h、就労継続支援B型：1～3h。

【主な作業の内容】

- 野菜の収穫・選別・袋詰め・シール貼り。

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- 就農当時50aだった経営面積が、現在では20倍以上にまで拡大することが出来ました。
- 特にR6年に高齢化で作れなくなった8haの畑を引き受け、えだまめを増産しました。農福連携で労働力を確保できたことで規模拡大が可能となり、地域の農地維持にも繋がりました。
- 利用者の働く場の確保、賃金・工賃を向上することが出来ました。
- 個々の利用者の障がいの程度を理解することや得意・不得意を見極め、気持ちよく作業を行ってもらうように気をつけています。

【継続するためのポイント】

- 作業を行う場合は、休憩をこまめにとることや作業を急がせないこと、また、コミュニケーションの時間をつくることです。
- 障がい者の目線で作業を効率的に行う観点から、野菜の収穫サイズが判断できるように、尺棒（スケール）を作りました。

これから農福連携に取り組もうと考えている農業者へ一言

- 農家と障がい者のお互いがメリットを感じる関係性が大切と感じています。
- 障がい者に気持ちよく作業してもらうために、肯定的な言葉を掛けるよう心がけています。

社会福祉法人 のぞみの家福祉会

ジュブプレイスのぞみふぁーむ（就労継続支援B型事業所）
（新潟県新発田市）

～農福連携を地域とともに取り組む「結米（ゆめ）物語」～



しいたけの選別・パック作業



パックしたなすとアスパラガス



刈った稲をハサ掛け



コメ「結米物語」

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 施設利用者が生きがいを感じ取り組める仕事として、地域の基幹産業である農業を選択しました。地域では高齢化・担い手不足で耕作放棄地が増えつつあるという課題があり、その解消の一環として農家が管理できなくなった土地を借りてアスパラガスや大豆の「一人娘」等の栽培に取り組みました。
- また、地域の農事組合法人、保育園、特別支援学校と連携し、田植や稲刈りのイベントも開催し収穫米の一部を「結米（ゆめ）物語」（天日干しコシヒカリ）として販売しています。そのほかにしいたけやキクラゲを栽培・販売しており、大変好評です。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口・事業等）】

- （県）新事業チャレンジ支援事業を活用（デザイン・パッケージ）

障がい者の就労状況

【主な作業内容など】

- 米の販売、しいたけ、キクラゲ、アスパラガス等野菜の収穫・パック詰め、直売所等への納品。地域農家より委託された農産物の収穫やハウスの片付け作業等
- 障がい者作業人数：約20人／日（通年）

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- イベント等で商品を買っていただいた人から「おいしい」と言ってもらえ、施設利用者の励みや喜びになっています。また、農作業に出た日は、良い睡眠がとれていると聞いています。
- 作業委託農家からは、「作業労力が軽減され、経営改善に繋がった」と大変感謝されています。

【継続するためのポイント】

- 施設利用者の特性に合わせて作業工程を細分化したり、農家との信頼関係の構築に努めました。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- 農家となんでも相談できるような信頼関係づくりが大事だと思います。
- 地域の農家が減少してきているので、農業の継続や地域の活性化のため、農福連携への期待が大きいのと感じており、農福連携は障がい者の働く場の確保、工賃アップに繋がります。
- 施設利用者の年齢が年々上がってきています。若い障がい者の方に農福連携の魅力や効果をもっと知ってもらい、農福連携を通して社会参画のきっかけにしてほしいです。

特定非営利活動法人 立野福祉会

障がい者就労トレーニングファームチャレンジ立野（就労継続支援B型事業所）
（新潟県佐渡市）

～地域の労働力不足解消に向け農福連携～



採種キャベツの移植



堆肥処理



大豆の乾燥



アートサロン和

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 働きたくても働く場所がない障がい者と地域の担い手不足両方の課題を解決するため、2013年4月に小規模作業所を開設しました。
- また、地域内において耕作できない農地が増えてきたことから、農福連携により、農地の借り受けや農作業受託などを行うことで地域農業の活性化と農地の維持・管理にも努めてきました。

障がい者の就労状況

【年間作業利用者数】

- 年間作業利用者 40名

【主な作業の内容】

- 田植、稲刈り、堆肥処理、稲わら収集・乾燥、採種キャベツ、柿収穫の他、雨天時には、大豆、ゴマの乾燥、選別、球根の出荷作業、冬期間はボランティアで除雪作業を行っています。

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- 障がいの程度により、作業を切り出し、各人の適正に応じた作業を任せることで、障がい者のやりがいにも繋がっています。
- 耕作放棄地の解消と地域農業の維持が図られ、地域から感謝される存在になっています。
- 古民家を改修したカフェ「アートサロン和（やわらぎ）」の開設により、地域との交流、さらに地域外からの来訪者も増加し、地域活性化に繋がっています。
- 米粉菓子、佐渡番茶、あんぼ柿などを製造しており、現在は、JA直売所等に販売していますが、当初は販路を探すことに苦労しました。

【継続するためのポイント】

- 地域行事などに参加し交流を深め信頼を得ることが必要だと思います。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- 障がい者が働きやすい環境づくりや個々の得意な所を見つけてあげることが大事だと思います。

特定非営利活動法人 支援センターあんしん

ワークセンターあんしん、きぼうワークス（就労継続支援B型事業所）
（新潟県十日町市高田町）

～農福連携の相談窓口として「農」と「福」をつなぐ～



田の草取り



乾燥野菜加工



事業所内で枝豆の選別



ノウフクマルシェでの販売

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 自然と文化に恵まれた妻有地域において、地域貢献として、地域の産業の一つである農業に携わりたいとの思いから、令和元年に県十日町農業普及指導センター主催の「十日町地域農福連携セミナー」に参加し、農業・福祉相互の理解促進を目的とした施設外就労等の実践研修「おためしノウフク」を実施しました。
- 利用者の仕事の幅を広げ、豊かな日常を送ることと工賃の向上を目的とし、令和2年から本格的に「農福連携」の取組を開始しました。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口・事業等）】

（相談先）十日町農業普及指導センター

（県）令和3年度多様な人材が活躍できる農業推進（農福連携支援）

活用内容：施設外作業環境の改善（水田用草刈機、除草機等）

障がい者の就労状況

【年間作業利用者数】

- 年間延べ24名

【主な作業の内容】

- 農作物生産（自社）：水稻（コシヒカリ）、野菜（大根、サツマイモ、大豆、パクチーなど）
- 作業受託：かぼちゃの定植、トマトの摘果・摘葉、ねぎ収穫、大根洗浄、畑のマルチ除去、田植・除草・稲刈、出荷パッケージのシール貼り、育苗箱洗など

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- 利用者にとっては、施設外就労することで、工賃アップや依頼元の農業者からの感謝やねぎらいの声を聞くことで作業意欲の向上や喜び、やりがいを実感できました。
- 作業の対価として金銭ではなく、こちらの希望した規格外の野菜をいただき、それを給食センターから買ってもらうことで、地域内循環の仕組みが構築できました。
- 暑い中、利用者さんから安全に作業してもらうための体調管理が大変でした。

【継続するための工夫】

- 「ワークセンターあんしん」が窓口となり、十日町市内外の福祉事業所、行政、農業関係団体が連携した農業連携の受入体制が構築され、持続的な取組に繋がりました。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- まずは、チャレンジしてみて、そこから自分たちができること、得意なことを探り、その結果として地域から求められる存在になれると思います。

有限会社 角田山農園（カーブドッチワイナリー） （新潟県新潟市西蒲区）

～多数の福祉施設と連携して、ワイン用ぶどうの栽培に取り組む～



除葉作業の様子



収穫前のぶどう畑



収穫作業の様子



ワインショップ（外観）

農福連携に取り組んだ経緯

【経営概要】

- ワイン用ぶどうを栽培し、自家醸造ワインを製造、販売しています。
- 平成4年に角田浜で栽培を始め、砂地の畑を土壌改良し面積を広げています。
- 現在の栽培面積は8.5ha。他に契約栽培を県内外に依頼しています。

【取り組んだきっかけ】

- 新潟市あぐりサポートセンターの説明を受け、平成27年度に新潟市の『施設外就農促進事業』の謝礼金を活用し作業を依頼したところ、丁寧な作業で助かると感じ連携開始。その後に依頼作業を増やし、複数の施設との連携を行っています。

障がい者の就労状況

【雇用者数】

- 福祉施設の施設外作業として、1回2時間程度の作業を複数の施設に依頼しています。
- 収穫期（8/下～10/中）は14施設、それ以外は6施設が交代で作業実施しています。
- 作業参加の人数は、1施設3名～7名程で支援員が同行しています。

【主な作業の内容】

- ワイン用ぶどうの除葉・収穫・剪定後の枝集め。畑の除草。

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- ワイン用ぶどう栽培は、手作業が多いため、一部の作業を農福連携で行うことで、社員は専門的な作業に専念することでができ、ワインの品質にも良い影響が出ています。
- 支援員が同行しているので、個々への指示や作業確認も任せられるので安心しています。
- 複数の施設と連携しているので、施設ごとに担当者との連絡を取る必要があります。また、作業指示等が、各施設に同じ内容で伝わるように気をつけています。

【継続するためのポイント】

- 年間の作業スケジュールを見直し、時期ごとの作業を計画的に施設へ依頼するようにしています。
- 施設利用者へ作業の必要性や感謝の言葉を伝えたり、年数を重ねている施設とは報酬アップの相談をする等、一緒に働く者同士、施設利用者が『やりがい』を感じて頂けるように心掛けています。

これから農福連携に取り組もうと考えている農業者へ一言

- 作業全体の中で工程や判断が少ない作業を任せ、最初は効率を求めずに見守る気持ちを持つことが大切と感じています。

柄山そば生産組合（えちご上越農業協同組合）

（新潟県上越市板倉区）

～要介護認定高齢者の経験を生かしてヨモギを製造～



ヨモギの収穫作業



葉こき作業



乾燥後のヨモギ

【経営概要】

- そば10.5ha、ヨモギ2a

【取り組んだきっかけ】

- 中山間地域の活性化と農家所得の向上を目指し、令和3年から耕作放棄地を活用したヨモギ栽培を開始しましたが、収穫後に茎から葉を外す「葉こき作業」が手作業で手間がかかることが栽培拡大のネックになっていました。このため、地域活動で交流があった福祉施設に令和5年から葉こき作業を委託しました。

農福連携に取り組んだ経緯

障がい者の就労状況

【作業内容・作業人数】

- 1日4時間程度の葉こき作業（約20kgのヨモギの葉が取れます）を年間約20日。
- 福祉施設（みやじまの里 清心荘）のデイサービスを利用する要介護認定高齢者と、隣接する就労継続支援B型事業所（板倉ふれあい工房）の障がい者の方とを合わせて、平均10名程度で作業をしています。

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと・大変だったこと】

- 手間がかかる葉こき作業を委託したことで、より多くのヨモギを収穫できるようになりました。
- この地域では、かつて、子供がヨモギを集めて学校に持ち寄り、教育資金に充てる習慣があったことから、高齢者は自分の子供時代を思い起こしながら、生き生きと作業に取り組んでくれました。また、障がい者にコツを教えながら一緒に作業を行うことで、これまで見られなかった高齢者と障がい者の交流も生まれました。
- ヨモギを収穫する人数が少なかったこともあり、福祉施設に持ち込むヨモギの量が安定せず、作業量の平準化には苦労しました。

【継続するためのポイント】

- 高齢者の方に、若い頃にやり慣れた作業をお願いしたことが良かったと思います。

これから農福連携に取り組もうと考えている農業者へ一言

- 地域活動を通じて、日ごろから福祉施設と交流することで、お互いの課題を共有することができ、農福連携の可能性が広がると思います。
- 新潟では他の地域でもヨモギを集める習慣がかつてはあり、また、食品企業等からの需要もあるので、同様の取組を他地域でもできるのではないのでしょうか。

株式会社 グリーンプラント中越

(新潟県長岡市)

～廃棄していた食材を農福連携で有効活用～



播種作業



ハウス内で青々と育った
ベビーリーフ



収穫後に残った茎・葉
の摘み取り作業



学食のサラダは大好評

農福連携に取り組んだ経緯

【経営概要】

- 天候の影響を抑え、安定的に栽培できる太陽光・人工光併用型植物栽培施設（温室ハウス2棟）を活用し、サニーレタスやルッコラ、みずな、こまつななどのベビーリーフをホテル、レストランや市場に出荷しています。

【取り組んだきっかけ】

- 平成27年から、社会貢献の一環として、福祉施設に紹介してもらい障がい者の雇用を始めました。
- ベビーリーフを収穫した後に残る茎や葉を、根と一緒に産業廃棄物として焼却していましたが、「まだ食べられるのに」との思いから、食材として活用できないかと考え、長岡市及び「みのわの里 工房こしじ」の農福連携コーディネーターに相談したところ、障害者就労支援事業所「ワークセンターのっぺ」を紹介され、令和4年から「のっぺ」が運営する喫茶店や大学の学食でサラダ等に利用されるようになりました。（「のっぺ」の取組みは事例集11ページ参照）

【農福連携に活用した支援策（相談窓口）】

- 長岡市産業イノベーション課、みのわの里 工房こしじ（新潟県農福連携コーディネーター）

障がい者の就労状況

【主な作業の内容と雇用者数等】

- 平成27年から、1～2名を通年雇用し、栽培資材の片付けや清掃、播種作業を担当。
- また、週2回、「のっぺ」利用者1～2名が来園し、ベビーリーフの収穫後に残った茎・葉の摘み取り作業を行います（30分～1時間程度）。

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと・大変だったこと】

- 社員が障がい者と一緒に作業することで、自然と障がい者への思いやりや理解が深まりました。
- 収穫後に残る茎や葉を摘み取って活用してもらうことで、産業廃棄物の削減につながりました。
- 障がい者が従事する作業の切り出しや、作業に使う道具の工夫（は種量を正確に量れるようにしました）には苦労しました。

【継続するためのポイント】

- 随時コミュニケーションを取りながら、作業してもらいたい内容を的確に伝えることが重要だと思います。

これから農福連携に取り組もうと考えている農業者へ一言

- 働く環境の整備や作業の内容は、障がい者の方の身になって考えることが大事だと思います。
- 作業のやり方を説明する時は、あせらず丁寧に教えることで信頼関係が深まると思います。

医療法人 崇徳会

ワークセンターのっぺ（就労継続支援B型事業所）
（新潟県長岡市）

～ベビーリーフ収穫後に残った茎や葉を学食で提供～



収穫後に残った茎・葉の
摘み取り作業



作業を標準化して
ハサミで収穫



学食のランチに添えた茎・葉



選別作業

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 長岡市産業イノベーション課、新潟県農福連携コーディネーターから「産業廃棄物として処分している、ベビーリーフ収穫後に残った茎や葉を活用できないか。」と声を掛けていただいたのがきっかけです。もったいない気持ちから何とかしたいと思いました。
- 茎・葉の摘み取り作業と選別作業は、福祉事業所の作業種目が増えるため、利用者の新たな仕事として位置付けました。
- 収穫した茎・葉は、福祉事業所で運営している喫茶店や大学の学食で選別作業を行い、サラダ等に活用しています。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口・事業等）】

- （県）新潟県農福連携コーディネーター（みのわの里 工房こしじ）

障がい者の就労状況

【主な作業内容など】

- 茎・葉の収穫、選別 週2日 2人／日（通年）

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと、大変だったこと】

- 作業種目が増えたことで、利用者の適性に合わせた作業を提供できました。
- 茎・葉を無償で提供いただいたことで、喫茶店や学食の食材費を減らすことができました。
- 利用者の得手不得手を確認する機会として活用できました。
- 残った茎や葉の有効利用により、産業廃棄物の処分量の減少に微力ながら貢献できました。
- 誰が作業を行っても同じ品質になるような作業方法の工夫（標準化）に苦労しました。
- 施設外での作業のため、同行するスタッフの確保に苦労しました。

【継続するためのポイント】

- 作業日（曜日）を固定することで、同行スタッフの業務の工面ができました。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- 「もったいない」から始まった取組でした。お互いに「良かった」と思えることが農福連携には、まだたくさんあると思います。

社会福祉法人とよさか福祉会

豊栄福祉交流センター クローバー
(新潟県新潟市北区)

～食品加工で広がる農福連携の輪～



納豆製造作業



玉ねぎの収穫作業



蜂蜜瓶詰作業



クローバー納豆
カメヨコなっとう

農福連携に取り組んだ経緯

【取り組んだきっかけ】

- 15年以上前から地域農家からの依頼で除草作業等を行っていました。また、センター内の食品加工施設を活用し、国産大豆を使用した納豆（クローバー納豆）の製造・販売を行っていました。
- 平成27年には、新潟市あぐりサポートセンターの農福連携の研修会で大豆を生産する農業法人や養蜂農家と知り合い、農業法人から納豆製造（カメヨコなっとう）を、養蜂農家からは蜂蜜瓶詰作業・ラベル貼等の作業を頼まれました。従来のクローバー納豆の原料もこの農業法人の大豆に切り替えました。さらに、養蜂農家、※1フードコーディネーターと一緒に※2ビスコッティなどの商品開発にも取り組む等、徐々に農福連携の幅が広がっていきました。

※1 中小企業庁の「よろず支援拠点事業」を活用。※2 イタリアの伝統菓子で硬い焼き菓子のこと。

【農福連携に活用した支援策（相談窓口）】

- 新潟県障害福祉課、新潟市あぐりサポートセンター

障がい者の就労状況

【主な作業内容と作業利用者数】

- 施設外作業 枝豆の除草・マルチ除去、養蜂箱の防腐剤塗布、苗箱洗いなど。6～7人／日
- 施設内作業 納豆製造 10人／日（通年）、蜂蜜の瓶詰 4人／日（通年）

農福連携に取り組んでみて

【良かったこと・大変だったこと】

- 農作業を通じて障がい者が社会貢献できることを色々な方に伝えられることが嬉しい。また、施設外の人から評価されることで障がい者も自信が付きます。
- 令和2年からは、新潟県障害福祉課から農福連携コーディネーターの委託を受け、農業者と福祉事業所のマッチングにも取り組んでいます。コーディネーター業務は、農業と福祉の双方の理解が必要であり、色々な人と出会えることから、職員の人材育成に繋がりました。
- 一方で、障がい者ができる作業を見極めて、作業工程を分けるなど細かい工夫が大変でした。また、暑い時期の作業では、施設利用者の体調管理に気を遣いました。

【継続するためのポイント】

- 農業者が求めることを常に考えながら、信頼を獲得することが大事です。また、失敗しても農業者と一緒に腹を割って話し合えるような関係性を築くことが必要だと思います。

これから農福連携に取り組もうと考えている福祉関係者へ一言

- ただ単に農作業を受託するのではなく、福祉側が農業者の立場に立ったうえで、お付き合いすることが大事です。そうすることでお互いにWin-Winの関係性が築けます。



はじめませんか！ **農福連携**の第一歩を！

【お問い合わせ先】

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

TEL 025-228-5216

FAX 025-223-2264

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1